

日越大学ニュース

【「三谷産業・小金井精機製作所連携講座」開講式、開講記念特別セミナー「日本型ものづくり」を実施～ものづくり研究の第一人者である早稲田大学 藤本隆宏教授による講演～】

9月8日、「三谷産業・小金井精機製作所連携講座」の開講式及び、開講記念特別セミナーをオンラインで実施し、日越大学の教員・学生に加えて、関係教育機関、日越両政府機関から、144名が参加しました。

本講座は、多くの企業の協力を得ながら日越大学の学士課程日本学プログラムの正規科目として2021年9月から2023年12月まで実施され、グローバルな視野で日本のものづくりをとらえることのできる人材の育成を目的としています。



三谷産業株式会社・三谷充取締役会長



日越大学・古田元夫学長



小金井精機製作所・鴨下祐介代表取締役社長

開講式で、山田滝雄駐ベトナム日本国特命全権大使は、「本講座によって日越大学の学生が日本型ものづくりに関する知識や理解を深めることを確信するとともに、日越外交関係樹立50周年を迎える2023年、その後の50年後にも日越大学の学生が日本とベトナムの架け橋となってくれることを大いに期待する」と述べられました。続いて、三谷産業・三谷充取締役会長、小金井精機製作所・鴨下祐介代表取締役社長、日越大学・古田元夫学長から、日越大学と日本のものづくりを代表する企業が連携し、次世代の人材育成に貢献していく決意が表明されました。また、本連携講座の協力企業である東レ株式会社、本田技研工業株式会社、デンソー株式会社、セイコーエプソン株式会社、日本科学技術連盟からの激励のメッセージも紹介されました。



特別セミナーのモデレーターを務める日越大学 Tu 副学長



早稲田大学・藤本隆宏教授

特別セミナーでは、早稲田大学の藤本隆宏教授から「Monozukuri-Japanese style manufacturing in the 21st century」と題し、日本の代表的な製造業である自動車産業を事例に、ものづくりは、コスト削減が先に行くのではなく、付加価値を生む「良い流れ」を作ることが重要であることが指摘されました。日本の製品アーキテクチャーのモデルをインテグラル型、アメリカ、中国をモジュラー型に分類し、ベトナムは、各国のモデルを

参考にしながら、ベトナムの文脈にあわせ、独自のモデルを発展させることが重要ではないかとの提起がなされました。

討論セッションでは、ベトナムの製造業の過去を振り返り、現在、未来の製造業のあり方、ソフトウェアの重要性について活発な議論がなされました。三谷産業の三谷会長からは、ベトナムでの経験から、日本のものづくりは、技術だけではなく、ベトナム人社員一人一人が考えるようになるチームづくりであり、文化であるとの指摘がありました。



開講式での全体集合写真（上段中央：山田滝雄駐ベトナム日本国特命全権大使）

（記事作成：石原伸一チーフアドバイザー、辻修子専門家、原理栄子専門家）

【東洋大学との学生交換協定署名式を開催】

9月2日、東洋大学において日越大学と東洋大学間の学生交換協定署名式が開催されました。日本の大学との学生交換協定は、幹事大学以外では、金沢大学（2019年締結）に次ぎ2つ目となります。本協定の締結に伴い、日越大学の学生の留学機会が更に広がったほか、長年にわたる国際交流・留学生受け入れの経験を保持する東洋大学の充実した教育設備において、質の高い教育を受けることが可能となります。

署名式には、日越大学からは古田元夫学長、東洋大学からは矢口悦子学長、高橋一男副学長（兼国際教育センター長）が参加され、新型コロナウイルス感染予防対策が講じられる中で、それぞれの学長より署名が交わされました。その後行われた懇談の中で、古田学長からは、日本語教育ならびにサステナビリティ分野での交流や、学部生とのオンサイト・オンラインでの交流に関する希望が東洋大学側に伝えられました。

今後は年間最大3名の学部生及び院生が、交換留学生として最長1年間、留学先の大学において開設されているコースを履修することができます。授業料などの学費は留学先の大学によって免除されます。

「学生交換協定」によって、日越大学と東洋大学間の友好的な連携が新しい展開を迎えることになりました。両大学の学生に多様な教育を通じた成長の機会がもたらされることが期待されます。



(左から) 東洋大学・高橋一男副学長、日越大学・古田元夫学長、東洋大学・矢口悦子学長



(記事作成：田中清子専門家、原理栄子専門家)

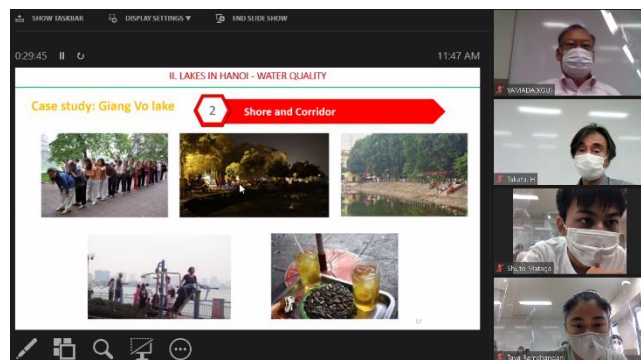
学部課程プログラムニュース

【日越大学×関西学院大学・オンライン共修教育プログラム

テーマ：持続可能な開発（水環境問題） 田中清子専門家、原理栄子専門家

日越大学と関西学院大学は、8月23日から26日の4日間にわたり、日越大学日本学プログラムの学生8名、関西学院大学の学生21名の参加を得て、環境問題に関するオンライン共修教育プログラムを実施しました。本プログラムは半年をかけて両大学で打合せを積み重ねて準備されたもので、両大学の学部生が互いの国の環境問題やその影響を共有し合うことで、「環境と開発」に関する理解を深めることを目的としたものです。

プログラム初日には、関西学院大学の高田裕彦教授と日越大学（環境工学プログラム）講師の Dr. Tran Thi Viet Ha による2つの講義が行われました。高田教授からは、日本の環境問題の歴史が紹介され、日本が環境問題を解決するきっかけとなった制度や社会システムなどの背景が説明されました。Dr. Ha からは、ベトナム国内で問題となっているハノイ市内の湖の管理状況について現状の共有と問題の提起が行われました。専門的な内容ではあったものの、両国の学生は自らの知識をもとに懸命に教員の質問に英語で回答しようとしていました。



プログラム初日：Dr. Tran Thi Viet Ha による講義に耳を傾ける関西学院大学の学生

3日目には「環境に関連する文化・生活の紹介」について、関西学院大学4グループ、日越大学2グループの計6グループによる発表が行われました。日越大学の学生によって農作物の収穫祝いである中秋節の行事が紹介された一方で、関西学院大学の学生からは日本の四季や世界遺産の屋久島、さらには環境問題を扱うスタジオジブリの映画が紹介されました。日本ではお月見がベトナムの中秋節よりも大がかりな催しではないことに日越大学の学生は少々驚いていたようです。また、お祝いの飾りについても近年ではプラスチック素材が使用されることになり廃材が環境汚染につながっているという課題も報告されました。

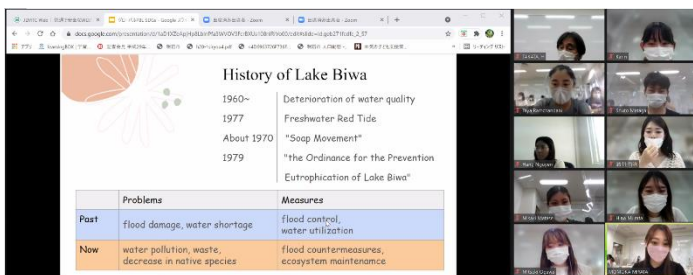


ベトナムの中秋節を紹介する日越大学学生
(プログラム3日目)



日本の四季を紹介する関西学院大学学生
(プログラム3日目)

本プログラムの最終日は各グループが約2週間の時間を費やして研究をした成果の発表をもって締めくくられました。日越大学の学生はハノイ市内の湖や川の汚染問題を取り上げ、関西学院大学の学生は琵琶湖で実施されている環境保全活動や湖の持続的な管理体制に関する研究結果を発表しました。プログラム4日目で慣れてきたということもあってか、活発な質疑応答が行われました。両国の学生間では「環境を守る人々の意識や行動の変革」が重要であるということが再認識されており、日越大学の学生は今後、日本の琵琶湖モデルを参考にハノイの湖や川の学生環境保全活動に積極的に参加することになるかもしれません。

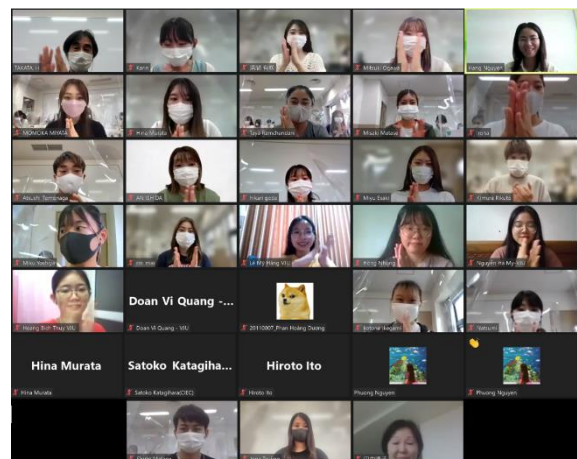


琵琶湖に関する研究結果を発表する関西学院大学
(プログラム最終日)



ハノイの環境問題を発表する日越大学
(プログラム最終日)

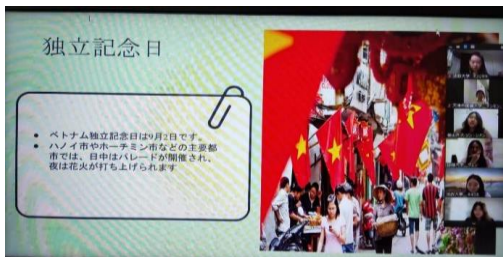
今回のプログラムは関西学院大学では成績、単位の付く正課の授業という位置づけであったこと、また、関西学院大学の学生は教室から、日越大学学生は自宅からオンライン参加という形態となり、難しい運営を強いられました。しかし、主モデレーターの高田教授に加え、日越大学のDr. Dang Thanh Tu (R&DP 筆頭副課長)、Mr. Truong Cong Hieu (学生課職員)、Dr. Nguyen Thi Thuy Hang (教務・学生課課長兼 MCCD 講師) がそれぞれ初日、3日目、最終日の副モデレーターとして学生の積極的な参加を促しただけでなく、発表準備に関してきめ細かな学生指導を行ったことで、素晴らしい学生発表とともに4日間のプログラムを成功裏に終えることができました。



た。本プログラムの VJU 側責任者である Dr. Tu は本プログラムを振り返り、「これまでに日越大学で実施してきた短時間の文化交流プログラムの枠を超え、自らの専攻科目とは異なる分野で学術的な研究・発表をすることとなった日越大学学生にとって、大変学びの多い内容となった。今後も大学として学生のために同様のプログラムを企画していきたい。」と述べています。

【日越大学(ベトナム)、法政大学(日本)、釜山外国語大学(韓国)、天津外国語大学(中国) 合同交流会を開催】 山口昌志専門家

9月3日(土)、4か国の大学が「各国の夏祭り、夏の風物詩について」をテーマにオンラインで合同交流会を開催しました。本校の他に日本の法政大学、韓国の釜山外国語大学、中国の天津外国語大学から学生が7名ずつ参加し、テーマに沿って日本語で交流を行いました。本オンラインプログラムは、昨年にコロナ禍の中で初めて実施され、今年は2回目の開催となりました。



はじめに、浴衣を着た法政大学の学生がクイズを交え、日本の夏祭りや浴衣についての紹介をし、次にグループに別れて、それぞれの国の夏のお祭りや風物詩について語り合いました。

交流会の最後に行われたグループ別発表では、本交流会の前日に国慶節(独立記念日)を迎えたベトナムの状況、法政大学の賑やかな大学祭、また韓国や中国での夏の食事やお祭りについて話し合われたことが報告され、学生が日本語で繋がる異文化交流を楽しんだ様子が伺えました。特に日本語を学ぶ学生にとっては、今後の日本語学習の励みになりました。本プログラムはベトナムの独立記念日にあたる連休中での開催となりましたが、ハノイでは社会隔離(ロックダウン)による行動制限が

敷かれていました。先の見えない状況であるからこそ、参加した日越大学の学生それぞれにとって、記憶に残る有意義な時間となったはずです。



人事往来

【離任】

高梨 薫（業務調整）

2021年9月離任

10月の行事

- ◇ 10月1日、4日 第2回・第3回 法政大学・日越大学 学生プランナーによる学生交流イベント
（第1回：9月25日）
- ◇ 10月19日 第2回 法政大学との大学管理運営連続ワークショップ（第1回：9月28日）
- ◇ 10月28日 昭和女子大学とのベトナム語交流会
- ◇ 10月30日 2021年入学式・卒業式

日越大学の情報発信

日越大学ホームページ：<https://vju.ac.vn/en>

日越大学Facebook：（日本語）<https://www.facebook.com/VJUjp>

（ベトナム語）<https://www.facebook.com/vnu.vju>

JICAホームページ：<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/057/index.html>

お問い合わせ

日越大学 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクトメールマガジン編集委員会
編集委員 原理栄子

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

【メール配信停止・変更】配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、日越大学 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクトメールマガジン編集委員会までメールにてご連絡頂きますと幸いです。